

郡市別	飼養頭數					飼養頭數				
	牛	馬	豚	山羊	山羊	牛	馬	豚	山羊	山羊
水戸	三	六	七	一	一	八五	三	二四七	一	二
東茨城	二、八八八	二、八四四	三、五〇〇	二	二	三、三七七	二、八三三	五、五五五	三	六九
西茨城	四、三三三	二、六三三	一、〇三三	四	六	五、五五五	三、〇三三	一、五五六	八	九九
那珂	一、三三三	二、六三三	四、〇三三	九	二六	一、三三三	三、〇三三	六、五五六	一八	一五七
久慈	四、四四四	五、六三三	一、三三三	二	七	四、七	六、五五六	一、七〇〇	三六	一八四
多賀	二、七二七	三、三三三	一、〇三三	十	二七	三、三三三	四、七三三	二、五五六	一	三九
鹿島	二、三九九	二、八八八	四、二八八	一	二九	二、四四四	二、八八八	五、八七七	一	四二
行方	一、八五五	三、〇三三	一、二七六	四	八三	一、九二二	二、〇五五	一、六九九	九	一三六
稲敷	三、三三三	二、〇〇〇	二、四三〇	二	五〇	三、三九九	二、〇三七	四、二五五	八	七五
新治	一、六三三	四、七六六	二、七三三	四	一四七	一、七六八	四、七五五	四、四四二	三	一〇三
筑波	一、三三三	二、三三三	二、二七七	一	一〇三	一、六九〇	二、七五五	三、六三三	一	一五二
眞壁	七九〇	四、〇三三	三、五五五	一	三七九	八八〇	四、〇三三	六、一五五	一	四三
結城	一、六六六	二、四三三	三、三三三	四	三三	一、八〇三	二、三九九	五、四八二	三	三六
猿島	一、四三三	二、四七七	三、四八八	一	三三	一、六五五	二、五三三	五、〇〇三	一	三六
北相馬	一、〇三三	一、三三三	一、〇三三	二	三三	一、〇七七	一、三九九	一、七六三	四	二七
昭和十年計	三〇、八四六	四、九八八	三、七九九	六	一、三三六	三、四三六	四、四九四	五、四四二	一三六	一、九二
昭和九年計	一九、五〇八	四、二九三	三、五七五	五	一、〇五五	二、二〇九	四、三三三	五、五九七	二九	一、五八

統計關係者大會並に統計協會長懇談會

川崎統計課長出席

三重縣及三重縣統計協會主催で四月二十一、二十二の兩日に亘り國産振興大博覽會を機として四日市、市公會堂(四日市博覽會場外四日市港頭)及宇治山田市に於て日本中部十八府縣統計關係者大會並全國道府縣統計協會長懇談會を開催、本縣からは川崎統計課長及齋藤囑託が出席した。

同大會の參會者は其の數三千に及び、劈頭村田三重縣統計課長開會を宣し、一同皇大神宮及皇居を遙拜したる後三重縣總務部長の開會の辭、同縣知事の式辭並内務、農林、商工の各大臣、資源局長官、内閣統計局長、三重縣會議長、同町村長會長等の祝辭及各道府縣よりの祝電を披露し、次いで三重縣縣總務部長を座長に推し別項の如き宣言、決議を異議なく拍手裡に可決し、引續き各府縣提出事項に付協議を遂げ、更に内閣統計局森統計官の講演ありて此の意義ある大會も極めて盛會裡に終り、午後は引續きて統計課長並統計協會長懇談會に移り各府縣提出の議案に就て慎重審議を行ひたる後大博覽會を見學し、國産振興上各種計畫の基礎資料を提供すべき我等統計關係者に取ては又と得難き幾多の收穫を得て大會第

一日を了し、第二日は皇大神宮の神域たる五十鈴川の邊に於て大會參會者一同神宮神部署長より神宮に關する講演を聽いてから御神樂殿に相集ひ大々神樂を奉奏して神明の御加護を得、以て現下の非常時に直面して益々我統計事務の改善刷新を計り奉公の誠を効すべく祈願をこめ、更に内宮外宮を參拜の上名残りを惜みつゝ散會した。

尙宣言、決議及各府縣の提出事項は左の通である

宣言

内外非常ノ難局ニ膺リ國歩日ニ重大ヲ加ヘ諸般ノ施設愈々振作更張ヲ要ス
吾人統計ノ事務ニ携ハル者深ク思フ此ニ致シ協心戮力統計ノ改善整備ニ努メ以テ躍進日本ノ盛運ニ貢獻センコトヲ期ス
右宣言ス

決議

一、吾人ハ専心統計ニ關スル智識技能ヲ養ヒ周密的確ナル統計ヲ整備シ速ニ之ヲ公表シテ時局對策ノ指針ヲ提示シ以テ其ノ本分ヲ完フセンコトヲ期ス
二、吾人ハ極力統計ニ對スル世人ノ理解ト認識トヲ深メ廣ク其ノ協翼ヲ促シ以テ使命ノ遂行ニ邁進センコトヲ期ス

府縣提出事項

- 一、農業調査實施促進ニ關スル件
- 一、師範學校、中等學校等ニ於テ統計學ヲ教授セシムルノ件
- 一、農業調査繼續施行方其筋へ要望ノ件

労働統計實地調査 十月十日全國一齊に

第五回労働統計實地調査は愈々今秋十月十日を期して全國一齊に施行せらるゝ管で目下夫々準備中であるが之が關係規則等は逐々發布の豫定で今日迄に内定してゐる計畫要綱に依れば、調査内容も多少改正の点あるから左に摘録して参考に供することにする

一、調査時期 昭和十一年十月十日 二、調査範圍

1、工場 従來は原則として三十人以上の労働者を使用する工場の事業主及労働者に付て調査せられてゐたが今回は五十人以上の労働者を使用する工場に付て調査せられんとするのである但し特定の事業の種類に依り三百人以上、百人以上五十人以上と區分することは従來通りである

2、交通業事業場 この交通事業に付て調査すると云ふことが今回新に計畫せられた点であり即ち労働者五十人以上を使用する左記交通事業場の事業主及び労働者に付て行はんとするものである

(イ)鐵道運輸事務所、保線事務所等

(勞働者——現業員中雇傭員)

(ロ)労働者災害扶助法の適用を受くる交通及運輸業並に運輸

地、雇傭者の有無、教育の程度、職名、就業の年月數、賃銀、實物給與の有無である

四、調査方法 申告書は事業業、労働票を用ひ地方實査は労働調査員、全副調査員之に當ることは従來通であるが今回新に加へらるべき交通業中船舶運輸業は地方長官の取扱より除外せられて逕信局長の取扱となり市町村長之を管掌すべく規定せらるゝ答である

一、總動員實施計畫ノ基本演習ニ關スル建議ノ件

一、統計調査員ノ待遇改善ニ關スル件

一、産業統計調査員ノ任命ニ關スル件

一、産業統計調査ニ關スル規程ヲ法律、勅令ニ根據セシメ以テ基礎法令ノ強化ヲ期スベク當局ニ要望ノ件

一、労働統計實地調査地方交付金ノ増額ニ關スル件

一、商工業調査實施ニ關スル件

一、統計費補助金増額ニ關スル件

一、統計調査ノ法制ニ關スル件

一、府縣統計協會資金蓄積ニ關スル件

一、統計調査員ハ國ニ於テ任命セラルル様中央ニ要望ス

一、統計ニ關スル制度施設ノ擴充整備ノ件

一、市町村産業統計調査費國庫補助金増額要望ノ件

一、統計教育普及ノ件

日本半部十八府縣統計課長會議提出事項

一、地方統計刷新改善促進方ニ關スル件

一、統計職員ノ俸給支辨ヲ國費ニ移管方ノ件

一、統計調査ノ實際的研究

統計協會會長懇談會提出事項

一、府縣統計協會資金蓄積ニ關スル件

一、道府縣統計協會ノ聯合會設立ノ件

一、統計思想普及宣傳ニ關シ各府縣ニ於ケル特殊施設アラバ承知致度シ

取扱費

(ハ)船舶運輸業(労働者——乗組普通船員)

(ニ)郵便局、電信局及電話局

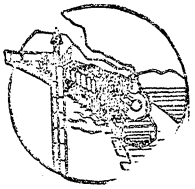
(労働者——雇員、現業傭人、技傭人)

三、調査事項 従來通で事業主に付ては工場、交通業、事業場ノ名、全所在地、事業ノ種類、労働者現在數、一日の所定労働時間、勤務時間、全休憩時間、一ヶ月の所定休業日數、實物給與の種類、價額で労働者に付ては氏名、性別、出生年月日、出生

統 計 実 地 調 査

先年本縣でも統計が政治問題として扱はれ、縣會を賑はしたことがあつたが、去る九日の衆議院本會議において、米穀法案に對する質問で政友會の代議士河野一郎氏によつて論議が開かれた、河野氏は本法案の審議に當りては鮮米に關する統計が極めて杜撰なるため正確な數字を得なければ正確なる結論に達し得ないといつて統計に現はれた數字の不備を指摘したのでさうだ、これに對して永田拓相は鮮米統計についてはこれを信するより外はない、併し統計の基礎については私には事情はわからぬが今後とも充分注意を拂つて正確にするつもりだと答辯した。

果して杜撰であつたか、又正確なものであるかの證議はしばらくおき、統計が其の儘直接に、かうして衆議院の問題ともなつたといふことは、統計が如何に重要性を帯びてゐるかを如實に示すもので、われ統計關係者の責任のますゝ重大なるを覺えると共に、統計の完璧を期する上に、一層周密なる注意を拂はねばならなくなつたわけである。



超スピードの 合同視察記

高濱第一區 須田生

兼て計畫中だつた統計調査員並に促成胡瓜出荷組合員、米穀検査員との合同視察を、四月七日貸切大バスによつて實行した。

プログラムは内閣統計局、千葉高等園藝學校、東京青果市場、生麥ビール會社及神田川正米市場等で、此日一日の行程が極度の時間緊縮を余儀なくされるため、早曉三時起床、五時出發の豫定を嚴守した。春先には常につきもの曇と雨！今朝もどうかと案じられた空工合がポツリ／＼と水滴を降らして曉春の深い霧は終に雨となる、まよ乗りかゝつた舟ではない自動車だ行く處まで行けと度胸をきめて途中幾

思はせるゴム樹や、シャボテンや其他名も知れぬ鬱蒼とした潤葉樹を見ると、き此處に淡いエトランジエの感じを覺えた。

スロープ一つ越した彼方の建物から嘸嘸とした喇叭が聞える、多分砲工學校の授業開始か？その近くに隣する千葉縣が試みる特別農家經營地は耕作面積一町五反歩、その内果樹園六反歩は未收入地、他は蔬菜穀菽園でこれから生産する品物は皆換貨して余す所がない今年で經營三ヶ年目になるが初年の収入は三百圓、次年六百圓、三年目一千圓と累進して、近く果樹の收入によつて相當収益も上る見込みとある、昨年の賣上げ高の主なるものは苺の八十圓、トマト二百卅圓、チューリップ卅圓、大麥、甘藷六〇圓、其他等でのこの經營のモットーは第一條件として收穫物は決して無駄にせず換貨すること、第二は地上に育成された作物は完全に

人かの同乗者を拾ひつゝ八時には松戸の園藝學校につく、その頃から漸く陽がさしかゝつた。前栽の植込み四季花を絶やさぬ趣好か、數々の種類の樹木が各々の特異性を發揮して密生し、なか／＼に雅致ある風景だ星野技手の知る先生の好意により温室花卉促成柵及特別經營農場を案内された、整然とした耕地には豌豆や苺やの若葉が折から今日の旅行を惠む陽光に生々として照り映え特に彼方の西洋花の白、黄、赤等色とり／＼の花辨の一つ一つは嬉々として自分達一行を歓迎するかにみえる。温室内のバナ、の巨人の指の如き房々に垂涎を催し、遠い南國の情緒を

之が收穫を計り、努力やこれに費した凡ての物質を徒勞無爲に期せしめないことである、吾等農家を經營する者機會と便宜との許す範圍にて大いに學ぶ可きだと痛感した、この庭前の櫻花まさに蕾紅にして開花はこゝ二三日の内が名残惜しき殘花を枝頭に着けて校庭の一隅に香る梅花は薰風と共に散りに散る。

數々の印象を残してこゝを辭去し、一路帝都へ向ふ、十時半頃神田川正米市場へ着き場内に三々五々蟻集する中小賣買人が、見本賣買によつて容易に取引され得る簡單なるこの取引場の机の上に、一皿毎に盛られてある各縣の産米を比較してみると本縣産米はその色澤や、粒揃へや乾燥調製の上に尙ほ相當考慮すべきものがありはせぬかと思はれた。

尙大東京二日の正米消費量は約四萬五千俵に上ると云ふ、この偉大なる胃

町村統計主任異動

(上は新任 括弧内舊)

昭和十一年四月一日 新治郡斗利出村

農林、商工、内務統計

町田 勘一 (酒井 貞一)

伊藤 鶴松 (酒井 貞一)

學事統計

久野 巳之吉 (酒井 貞一)

全 四月八日 筑波郡島名村

飯塚 竹三郎 (宮本 智觀)

全 四月十五日 那珂郡國田村

高 柿三郎 (蘭部千代吉)

全 四月二十一日 行方郡津知村

佐野 正志 (秋永 直衛)

全 四月二十三日 新治郡都和村

大 越 眞覺 (福田勝太郎)

全 四月三十日 新治郡林村

小松崎 雅一 (皆川源次郎)

昭和十一年五月一日 新治郡中家村

西 脇 衛治 (安達 元憲)

統計調査員異動

(上は新任 括弧内舊)

昭和十一年二月十日 東茨城郡川根村

安 島 保 (加藤岡貞夫)

全 二月二十日 久慈郡小里村

高 里 爲彦 (佐藤 義光)

全 二月二十四日 東茨城郡岩船村

宮 本 肇 (加藤木平次郎)

全 三村 市 藏 (小瀬 篤司)

小 林 千代一 (三村 正章)

全 二月二十六日 筑波郡小田村

前 川 善一郎 (白石菊之丞)

全 二月二十九日 新治郡石岡町

秋 山 利一郎 (小松崎義通)

全 三月一日 久慈郡高倉村

三 次 省 一郎 (石井 漢)

全 染 谷 守 (坂入 清)

全 三月十五日 那珂郡上野村

石 川 重 成 (野上 保)

全 三月二十五日 鹿島郡夏海村

田 口 熊太郎 (増設に依る新任者)

全 鹿島郡新宮村

石 山 英 雄 (鈴木 治夫)

小 野 村 昇 堂 (海老澤 昇)

井 川 邦 男 (池田 義次)

袋は、例へば吾等の郷土霞浦湖畔に營む幾多の耕地整理や干拓耕地の水稻約一千町歩が、完全に育成して鎌入れし得るにあらざれば満し得ざるものである、このエネルギーこそ躍進日本の表徴であらうか。

更に神田青果市場を訪ひ今後の市場は統制物のみかその販賣に有利にして然らざるものは不利なることを聞かされた、それより築地市場も見學し、目指す内閣統計局に行く、静寂都心とも思はれざる閑地を卜して位置せる吾等の統計局。そこに親切丁寧な局員の説明を聴き、自分達の仕事の上に一段の光明を認め、辭して南の方生麥へ、キリンビール會社に馳る、時既に門限に近くスピートで麥酒の製造過程を視察し、種々の接待を受けて大満足で歸路についた、夜の京濱國道の煌々たる輝きよ、ネオンサインよ、さらば。

のであつたけれども、それは一時的の感激であり一片の感情の興奮に過ぎなかつたことは誠に口惜しい限りであつた。

○
あくる昭和四年が小票制度最初の實施で、いさゝか私共は面喰つたものだ。従来の望遠鏡的調査を一掃して、此處に革新的な實地調査が斷行されたのだから、インテキ統計屋だつた私共が、面喰つたのは當然過ぎる程當然だつたかも知れない。制度は革新せられても、それを活用する人の心が革新されなければトモ統計其物の革新なり、改造なりは實現されさうもない。結局は人の問題だ。革新されぬ私共の心は、複雑で厄介で面倒くさくつて仕方ない新制度への轉向は、思へも及ばなかつたのだ。敢然として斷行するやうな勇氣は全然なかつたのだ。昨年よりは五分減だ、イヤ一割増だ等と云ふ机上統計で、昭和四年も五年も空しく経過して新制度は有名無實に終らんとしたが、ふとした動機から、統計と云

細則による小票調査 實施當時の思ひ出

飯岡 榮助

先進地たる千葉縣へ統計視察をしたのは昭和三年の秋だつた。それは従前の机上統計調査から、對物を中心としたる小票調査への一大革新斷行の準備工作としての取扱者たる私共への、縣當局の温い心の表現だつたことと思ふ視察中、殊に心臓をいぐらるゝが如き感動を禁じ得なかつたのは、香取郡津ノ宮村の統計事務だつた。兼務の身でありながら、あれ程までに行届いた一糸亂れざるところの完備した仕事を見せつけられ、その主任者の識見手腕力量に頭がさがると同時に、統計其物に對する趣味性の裕かさにもよることゝ感激に胸打たれざるを得なかつたのである。

さうした感激に浸りつゝ歸つてきた

○
ふものが何んなに重大なるものであるか何んなに尊い使命を持つてゐるものであるかを、イヤと云ふ程満喫せしめられたワケである。それはある日の出来ごとだつた。尊徳翁の書を読みふけり翁の御仕法の精神を味讀すればする程、正確なる統計が御仕法にとつて、何んなに重要な役割りを演ずるかを知りぬくことが出来たことだ。

○
これはほんの一例であるが、相馬領の復興に着手する時、尊徳翁は領の御仕法を確立するために、丹念に百八十年間の統計を調べぬき其處に初めて分度をついたのであつた。百八十年間の正確なる統計からスタートした相馬領の分度は、翁の熱と共に着々として更生の道を辿ることが出来たのだ。統計は翁のすべての更生策の礎石であり素因であると思つても、いささかも過言ではあるまいと思ふ。斯様に如何なる方針も對策も正確なる統計が最大の土臺石だと云ふ自覺と認識とを、尊徳翁

- 井川 乙 酉 (井川 俊吉)
- 飯塚 操 (小松崎源次郎)
- 坪沼 賛 雄 (瑞 東内)
- 全 三月三十日 多賀郡河原町
- 吉田 利次郎 (宮本 彌平)
- 全 三月三十一日 行方郡麻生町
- 志村 高三 (志村 新吾)
- 栗原 武 雄 (高崎 寛次)
- 小沼 信 (大盛 與重)
- 高寺 正 雄 (立原 善雄)
- 全 筑波郡小田村
- 長島 和一 (青木庄一郎)
- 大久保 保 治 (結束 五郎)
- 全 四月一日 東茨城郡山根村
- 大津 直 行 (粉川 俊)
- 市 毛 隆 (加倉井久衛門)
- 小瀬 信 一 (谷津 傳治)
- 大部 武 男 (森田鐵之介)
- 全 東茨城郡河内村
- 大澤 豊 二 (大澤七兵衛)
- 福島 吉太郎 (黒崎佐喜雄)
- 全 西茨城郡笠間町
- 成田 易之助 (成田丑之助)
- 全 那珂郡 郷村

- 堀江 菊太郎 (堀江 謙)
- 全 久慈郡金砂村
- 關 正 謙 (關 俊司)
- 吉澤 親 雄 (上久保孝夫)
- 全 久慈郡河内村
- 檜山 敬三郎 (檜山 秀雄)
- 和田 一郎 (和田 實義)
- 田所 常 雄 (石井 耕藏)
- 鈴木 勳 (石川力太郎)
- 田所 内藏雄 (田所源太郎)
- 田所 義 信 (石川 清見)
- 全 行方郡武田村
- 出久根 市 彌 (成田 多重)
- 全 行方郡現原村
- 全 行方郡秋津村
- 全 行方郡秋津村 (原田 惣作)
- 高野 賞 三(増設に依る新任者)
- 長峰 眞 衛(全)
- 星野 太 吉(全)
- 鬼澤 義 長(全)
- 飯島 仁(全)
- 全 鹿島郡豊津村
- 全 鹿島郡豊津村
- 野口 雄 亮 (増設に依る新任者)
- 全 稻敷郡木原村

我が村の統計調査員

城南生

たとい尊い心の記録でなければならぬ

から十二分に教へられてからは、從來の投げやりな机上統計や望遠鏡的な調査方法ではあきたらず、遂には心の苦惱とならざるを得なかつた。進んでさうした統計上の罪惡(〇)を清算し、第一に自己の精神を革新し、全く更生したる精神で、縣の細則により小稟調査の全部の實施をしたのは、その時だつた。それが丁度昭和六年の頃だつたと思ふ。

その頃の思出はさまざまな感想を呼び起す。何せよ初期時代であつたから随分と郡の主任の方に御心勞をかけた事もあり、微苦笑を禁じ得なかつた事や、冷汗をかゝざるを得ない失策等が、それからそれへと繪巻物をくりひろげたやうに心に甦つてくる、恥しいこと氣まりの悪いことのみだが、その中にも一種のなつかしさもあつてひとり微笑む場面がないでもない。

私共としてはその當時の思出は、まことに忘れんとして忘れる事の出来ぬ、ま

君たちの様子を拜見に來たのだ」と言へば『イヤ失敬々々それはお互に御苦勞だネ、丁度よい今僕は地圖と實地と全然合はんで困つてゐるのだ、鳥渡見て貰ひたい』といふ、春とは言ひ午後一時、暖かな天候に畑の間に地圖と對照しつつ調査する心勞誠に感謝する外ない、一年を通しての十圓か二十圓の薄給ながら、しかも國家の大事業たる統計とあつて斯くも熱心な調査員の心勞を思ふと實際何とも言ふ事の出来ぬ心地がする、まして若者にも似ず人の樂しく遊ぶをよそに只管統計事務に精進し、精確なる統計を纏めんとする努力、ほんたうに涙ぐましく許りであつた。

統計調査員異動の續き

- 全 四月一日 猿島郡勝鹿村
- 大 井 浦 次 (奈良芳之助)
- 丸 山 四郎治 (小森谷良之助)
- 吉 田 寛一郎 (小倉 新七)

櫻花爛漫として咲き亂れ、老若男女の群れが此處彼處に、去年の秋の水害も忘れたかのやう、酒に酔ひしれて仕だらなく樹間を遊びたわむるゝ今日此頃、まして家事が日増に忙しくなつて來たこの節期に、春季調査と大事な任務を帯びた調査員の活動はどうかと丁度土曜日を幸ひ、役場を正午迄で半休し先づ自分の大字の調査員の調査を見てやれと裏山を過ぎて畑一面の臺に出た、すると大麥小麦の青々と伸びた畑の間に地圖と實地と、とみかみ一筆宛に調査してゐる調査員の姿を見た、君は二十六歳の青年ではあるが奇特にも花をも見ずに前にひろげた見取地圖と實地とを對照してゐる最中だ、僕は御苦勞と一聲かけると『やよい天氣で結構だネお花見ですか』と言ふので『イヤ

- 全 全 猿島郡香取村
- 吉 田 周 助 (鈴木 万吉)
- 全 全 北相馬郡大野村
- 石 塚 好 重 (廣瀬 一郎)
- 全 全 東茨城郡練岡村
- 鈴 木 健 男(増設に依る新任者)
- 全 四月七日 結城郡西豊田村
- 富 塚 庄左衛門 (中山 孫市)
- 生 井 勝 佐 (廣瀬 章吉)
- 草 間 忠 太郎 (國府田龜助)
- 高 谷 勝 一郎 (高谷 勝造)
- 中 山 諒 (濱名 孝一)
- 飯 村 喜與志 (廣瀬 不二)
- 全 四月八日 稻敷郡牛久村
- 大 澤 博 (大澤 幹)
- 全 四月十四日 鹿島郡白鳥村
- 飯 岡 對 馬 (日向寺富七)
- 全 四月十五日 那珂郡大賀村
- 小 泉 敏 壽 (海老根正三)
- 廣 木 豊之介 (廣木 長壽)
- 全 全 那珂郡神崎村
- 澤 畑 與次衛門 (澤畑 一郎)
- 全 全 筑波郡板橋村
- 沖 出 善 次 (中島 七郎)

- 塚 本 茂 芳 (塚本 敏夫)
- 全 全 稻敷郡阿波村
- 津 本 理 一 (平野 徳治)
- 全 全 新治郡斗利出村
- 野 口 春 三 (野口義市郎)
- 中 島 扇 重(増設に依る新任者)
- 石 田 源 一郎(全)
- 全 全 新治郡林村
- 皆 川 惣 一郎 (矢口甲子丸)
- 全 全 新治郡眞鍋町
- 菊 間 豊 (菊間治一郎)
- 全 全 新治郡都和村
- 加 藤 謙之助 (湯原 百一)
- 工 藤 信 吉 (渡邊太右衛門)
- 全 全 眞壁郡川西村
- 大 久 保 實 (大久保甫一)
- 渡 邊 利 助 (宮田 勝造)
- 淺 沼 芳 一 (淺沼 勇造)
- 全 全 野左根 宗 助 (野左根 靖)
- 全 全 猿島郡香掛村
- 木 村 庄四郎 (倉持 太平)
- 全 全 猿島郡猿島村
- 中 島 幸 二 郎 (松本 源松)

- 全 四月二十五日 那珂郡木崎村
- 郡 司 長 太 郎 (小松崎辰藏)
- 前 澤 龜 壽 (寺門 爲藏)
- 全 四月二十八日 行方郡八代村
- 吉 川 基 弘 (吉川 基作)
- 全 全 那珂郡小瀬村
- 石 川 定 雄 (石川由之介)
- 全 全 猿島郡境町
- 加 藤 米 三 郎 (小室 辨藏)
- 金 子 文 吉 (江崎 嘉一)
- 天 野 元 吉(新設に依る新任者)
- 中 村 平 七(全)
- 櫻 井 源 治(全)
- 全 全 幸四郎(全)
- 小 島 幸 四 郎(全)
- 戸 張 陸 浩(全)
- 全 全 眞壁郡長讚村
- 市 村 安 平 (寺内 忠一)
- 高 濱 雄 四 郎 (武井政四郎)
- 全 五月一日 鹿島郡高松村
- 辻 注 連 松 (高木 豊作)
- 昭和十一年四月一日 結城郡絹川村
- 關 根 松 三 (野村伸一郎)
- 石 島 福 藏 (塚原 敏正)
- 平 澤 勇 助 (野村 利寛)
- 山 中 倉 藏 (森谷 勘一)

小野谷 義三 (小林 好)
 荒井 和平 (諸 銀藏)
 鈴木 徳一郎 (山田 吉平)
 白井 平一郎 (信末元三郎)
 青山 清八 (松持治郎吉)
 四月一日 西茨城郡南山内村
 藤家 丑松 (池田 寅吉)
 坪山 兵吾 (榎村留之介)
 藤岡 正明 (谷田部捨松)
 青木 重市郎 (森田 豊吉)
 高澤 幸藏 (原田 種憲)
 全 行方郡津澄村
 平山 靜 (人見 龍爾)
 全 北相馬郡大井澤村
 飯田 正一 (飯田 富)
 全 四月二十五日 眞壁郡中村
 鐵砲塚 右 (石崎 覺市)
 早瀬 傳一郎 (鈴木岩太郎)
 全 北相馬郡井野村
 中村 正雄 (増設に依る新任者)
 猪阪 丈一 (全)
 天藤 要野 (全)
 齋藤 正一 (全)
 全 四月二十八日 筑波郡上郷村
 岩田 幸之助 (田村八十松)
 飯島 清一郎 (伊藤幸一郎)
 光田 直 (澤邊 菊二)



短歌

丹 四郎選

『春雜詠』 『野原』

賞

新治郡藤澤村 愛村 耕夫
 芋床に芋伏せ居れば暖かき春日の照りに汗かきにけり
 次ぎ／＼に板橋見えて加藤洲の舟路はよしも柳朋えつつ
 北相馬郡東文間村 堀越 正直
 季節風吹き變る日も近からし木の芽漸く青める見れば
 久慈郡小里村 吉村 失名生
 駒方の立ちて賑ふ白河の町に宿りて馬具買ひにけり
 大原村 來 栖 浩太郎
 靜なる木の芽の村となりにけり夜毎に競ふ田蛙のこゑ
 猿島郡幸島村 小倉 白雨
 朝かけてそぞろ歩める春野原足にまかせて遠くも來つる
 草餅を搗いて欲しやとそこばくの蓬摘み來し吾子の面はも
 北相馬郡東文間村 宵雪 迂人
 春の陽のひかりかぎりかぎり青野邊に草食む牛の長鳴きぞする

寄贈圖書

静岡縣統計書一、二、四編 静岡縣
 賃銀物價統計月報 内閣統計局
 静岡縣勢要覽 静岡縣統計課
 静岡縣治一斑 静岡縣の織物
 静岡縣の教育 静岡縣産業要覽
 昭利十年官城縣參統計表 官城縣總務部統計課
 全 米統計書 全
 全 蠶桑統計 全
 職業紹介公報 中央織物紹介事務局
 卸賣物價月報 商工大臣官房統計課
 新資料月報 内閣統計局
 浪華の鏡 大阪府統計協會
 統計上から大阪見れば 大阪府
 岐阜の生産と公課 岐阜縣統計課
 東京府工場要覽 東京府總務部調査課
 昭利十年米作統計 全
 全 夏秋蠶統計 全
 統計研究會誌 京都府統計協會
 兵庫統計 兵庫縣統計協會
 賃銀統計月報 商工大臣官房統計課
 昭利十年兵庫縣夏秋蠶統計 兵庫縣總務部調査課
 全米統計表 全
 統計選集 柳澤統計研究所
 大原社會問題研究所雜誌 大原社會問題研究所
 兵庫縣會社一覽 兵庫縣總務部調査課
 關東局人口動態統計 關東局
 小賣物價月報 商工大臣官房統計
 愛知縣勢要覽 愛知縣
 福岡縣家畜統計書 福岡縣
 統計界(三月號) 岩手縣統計協會
 東京株式取引所統計月報 東京株式取引所調査課
 會社統計表 商工大臣官房統計課
 昭利九年死囚統計 内閣統計局
 全拓務統計 拓務大臣官房文書課
 高知縣統計書第一編 高知縣
 昭利十年米統計 高知縣
 第六十一回主稅局統計年報書 大藏省主稅局
 調査月報 朝鮮總督府
 宮城縣統計書第三編 宮城縣總務部統計課

多賀郡南中郷村 綠川 欣一郎
 あかときと戸を操り見れば殘月の障子にうつる櫻の影あり
 北相馬 文 流水
 種蒔きて畦に憩へば水害の去年の思ひの目に顯ちにけり
 行方郡武田村 境 勇
 山中の木下明りにほひつゝ今を盛りの春蘭の花
 鹿島郡中野村 大川 貞一
 早春の風まだ寒し日あたりのよろしきところ蓬朋えたり
 西山内村福原 森 愁子
 池の面に幽けく降れる春の雨なごみごろにしばし見て居り
 久慈郡染和田村 豊田 貞次
 夕靄につつまれにつゝぼやけ來し山邊閑けく春の雨降る
 稻敷郡生板村 大野 芳雄
 まちわびて花見む人の心にはさはらざりけり春のきり雨
 ○
 吾子看る病室の玻璃戸に觸りにつゝ落ち來る春の大き雪片
 そよろ吹く風寒からず寒竹の弾く夕日も春のものなり

次問題 『夏雜詠』

十首以内 締切 六月二十日



俳句

前田猶春選

題『春風』『柳』

○ 雨はれの湖畔明るき柳かな 那珂郡大宮町 駒田蓑人
 ○ 春風や散るともなしに籬の梅 新治郡藤澤村 柳田華水
 ○ 春風や紅の乾ける繪具皿 那珂郡藤郷村 高部吞風子
 ○ 貸舟の塗り替へ了し柳かな 同 青木青風
 ○ かたまりて峰の雲白し春の風 鹿島郡息栖村 立花嘉平
 ○ 青柳や四手ほしたる宿の庭 久慈郡久慈町 小川湖村
 ○ 芽柳に川風つよき日暮かな 北村馬郡高野村 倉持公太郎

○ 芽柳や軒すれくに通ふ船 行方郡武田村 鳥次ゆた香
 ○ 鳴きやみて土ふむ禽や春の風 稲敷郡君原村 大越馨
 ○ 校庭の国旗静かに春の風 西茨城郡大原村 來栖浩太郎
 ○ 春風や乾くともなき潦 新治郡互會村 増子よし女
 ○ 春風に女童のあそべる堤かな 西茨城郡大池田村 高野高亮
 ○ 月出て、影たちなほる柳かな 行方郡延方村 黒須憲三郎
 ○ 棧橋の柳の芽ぐむ港かな 鹿島郡大同村 西浦子
 ○ 苗代に水張れば柳影をもつ 稲敷郡君原村 湖南霞翠
 ○ 春風や豚舎の軒の抜きふくべ 猿島郡幸島村 小倉白雨

○ 大廣間あけ放したり春の風 鹿島郡中野村 大川貞

○ 垣津田や柳うつして水青き 那珂郡藤郷村 國松春風

○ 春の夜の風窓をうつ宿直かな 同村 岡山北星

○ 帆をあげて走る舟あり春の風 那珂郡佐野村 飛田松花

〔選者曰く〕題そのものが陳腐なためか今月は佳句殆んど無く従つて贈賞の價値なし、自分の句は如何してダメか、研究指導をうけたい方は二錢切手五枚封入左記選者宛送稿されたし。
 水戸市二ノ町 前田猶春宛

次の課題

題『鮎』『新樹』通じて十句迄

締切 七月一日限り

用紙 半紙二ツ折



柳川

山中緋郎選

題『視察』

○ 視察園みな笑はれる 園訛り 西茨城郡大池田村 高野高亮
 ○ 視察費へ足して手土産買つて来る 京都市下京區 宇の狸公三
 ○ 言ひ合つた様に褒めてく視察園 鹿島郡豊郷村 林喜平
 ○ トランクは名物ばかり視察園 筑波郡島名村 鯉淵浩花
 ○ 視察園夜は夜で別にあるプラン 長野市外榮村 小林琴の舎

本誌廣告料 値下斷行 大に利用せよ

『茨城統計』は創刊以來一年有餘、特異なる編輯を以て讀者諸君に見え、號を重ねるに隨つて益々發行部數を増し數多ある機關雜誌中斷然群を抜き、縣内は勿論、中央に於ても相當認めらるゝに至りましたことは編輯部同人の欣快とする處であります。

而して我が『茨城統計』は元より營利を目的とするものではありません、收支相償ふことによつて、以て初期の目的に副ふことが出来ますれば結構なことでありますので、今回廣告料金の値下げを斷行致しました。

◆特別
一頁表紙 金貳拾圓なり
表裏 金拾五圓を金八圓に變更
半頁同 金拾五圓を金八圓に

◆普通
一頁 金拾圓を金八圓に
半頁 金五圓を金四圓に
四分ノ一金 參圓を金貳圓に
▼同一廣告を引續き二回以上のときは
一割五分、五回以上のときは二割の割引をします。
▼廣告に寫真挿入又は木版を要するものは其の費用を別に申受けます。
▼廣告料は前納に願ひます。

茨城縣統計協會

茨城縣廳

編輯後記

新緑、まことに心よい季節となつた、緑を踏んで……とか何とか鐵道省は、緑を知らぬ都會の人々を郊外におびき出さうと大げさに廣告してゐるが、我等の農人諸君は緑を踏んで朝から晩まで躍動してゐるのだ躍進日本の眞の氣魄は諸君によつてはじめて味はれるのだと思ふ。

『茨城統計』また縁に注ぐ五月の太陽のすがくしい光りに似たる、なごやかな氣持で諸君にまみえようと努めたが、なか／＼思ふやうにならないのがおもしろい。

けれども今度は讀者諸君から、いろ／＼

有益な興味ある原稿を澤山頂戴したのが嬉しい、成るべく多數に轉録したいつもりであるが、紙面に限りがあつて漸く其の一部しか載せ得なかつた、併し次號なり、又その次なりへ出来るだけ掲載する考へであるから、御諒承を願うと同時に、更に大いに投稿されますやう切望する

長畑統計官の農作物統計論はいよ／＼本論に入り、引證該博、統計關係者にとりては實に珠玉の大文字である、統計官の御厚意を深謝すると共に、統計關係者に對し切に精讀を望んで己まない。(富岡如夢)

昭和十一年五月十三日印刷
昭和十一年五月十五日發行

(隔月一回十五日發行)

一部金十錢

水戸市北三ノ丸茨城縣廳

茨城縣統計協會内

發行兼

編輯人 川崎末吉

印刷人 柴博

水戸市南三ノ丸一〇七ノ二

印刷所 柴印刷所

水戸市南三ノ丸一〇七ノ二

水戸市北三ノ丸 茨城縣廳内

發行所 茨城縣統計協會